

*注目すべき結果！

注目したい結果は、知っている助産師が分娩中にいた女性の方が、知っている助産師がいなかった女性よりも「分娩のコントロール感」と「肯定的な分娩体験」が高いという内容です。

このように、妊娠中から知っている助産師が分娩に立ち会っているということは、女性にとってメリットがあるようです。

今回は「妊婦に対して、助産師が行うケアは、どのような効果があるのでしょうか?」について、「根拠に基づいて」解説をしました。

その結果、妊婦さんと赤ちゃんにとって、有害な結果はみられず、しかも妊婦さんの満足度は高いという結果でした。



この最新の研究結果は、聖路加産科クリニックのケアの基盤になっています。

(執筆：聖路加看護大学 飯田真理子 堀内成子)



助産師とは、

その国において正規に認可された助産師教育課程に正規に入学し、助産学の所定の科目を履修したもので、助産業務を行うために登録され、また・あるいは法律に基づく免許を得るために必要な資格を取得したものである。

(International Confederation of Midwives : 国際助産師連盟より)

疑問に思っていることや不安に思っていること、ちょっと話したいこと、何でも結構です。いつでも声をおかけください。

今回紹介した論文：

Hatem, M., Sandall, J., Devane, D., Soltani, H. & Gates, S. Midwife-led versus other models of care for childbearing women. Cochrane Database of Systematic Review. 2008, Issue 4.

*ホームページから全文を読むことができます。

http://www.mrw.interscience.wiley.com/cochrane/clsy/srev/articles/CD004667/pdf_fs.html

妊婦に対して、 助産師が行うケアは、 どのような効果がある のでしょうか？

「エビデンスに基づいた医療・助産」は、英語ではEvidence Based Medicine (EBM) といい、この「エビデンス」は、研究や実験の結果をもとにした「科学的根拠」のことを意味します。

私たちは「エビデンスレベル」の高い研究の結果をもとに皆様に助産ケアを提供します。

<http://www.kango-net.jp/nursing/03/index.html>



※研究論文をもとに、解説します！

妊婦に対して、助産師が行うケアは、どのような効果があるのでしょうか？

女性が出産できる場所として、病院、診療所、助産所、そして自宅があります。これらの場所には必ず、助産師が働いています。

出産を扱う施設が減少している昨今、正常分娩を扱うことのできる助産師が、女性をサポートする医療者として注目されています。



ここでいう**助産師が行うケア**とは、助産師がリーダーとなり、女性の妊娠の初診から産後までのケアを継続的に計画、組織化、実施するケアのことをいいます。その根底には、女性は最小限の医療介入によって、あるいは医療介入なしで出産できるという正常性や力を持っているという哲学があります。助産所では、この形のケアが行われています。

一方、**産科医等が行うケア**とは、産科医主導のケア、必要時産科ケアが行われるファミリードクター主導のケア、そして多職種専門職によってケアが行われる共有ケアがあります。これらは、妊娠期から産褥期に違った専門職からケアを受けることとなります。多くの診療所や病院では、この形のケアが行われています。



Hatem(2009)らが行った「妊娠中の女性が、助産師主導のケアと産科医等のケアを受けた場合の効果」という研究をもとに、解説します。

この論文は、オーストラリア、カナダ、ニュージーランド、イギリスの国々で行われた研究11本を統合して吟味しており、合計12,276人の女性が対象となっていました。産科的に問題がない女性のみを対象としていたのは6本、問題がない女性と問題がある女性の両方を対象としていたのは5本の論文でした。

* 助産師が行うケアのメリット

助産師が行うケアを受けた女性の方が、**産科医等が行うケア**を受けた女性と比較して、次のメリットがありました。

- ・ 妊娠期の入院が短い
- ・ 妊娠24週以前の死産、新生児死亡が少ない
- ・ 無痛分娩・局所麻酔が少ない
- ・ 鉗子・吸引分娩が少ない
- ・ 会陰切開が少ない
- ・ 分娩中の麻酔の使用が少ない
- ・ 分娩中に知っている助産師の立ち会いがある
- ・ 自然分娩の割合が高い
- ・ 母乳育児の実施が高い
- ・ 分娩中のコントロール感(自分で産めた感)が高い
- ・ ケアの満足度が高い

* 助産師が行うケアのデメリット

助産師が行うケアは、妊娠中の女性と赤ちゃんにとって、デメリットはありませんでした。

* 同等の結果であった内容

助産師が行うケアと産科医等が行うケアを比較と、次の内容に差はありませんでした。

- ・ 妊娠中の出血
- ・ 妊婦健診の回数
- ・ 「妊娠」全期間を通じた死産と新生児死亡
- ・ 妊娠24週以降の死産、新生児死亡
- ・ 人工破膜(赤ちゃんを包んでいる膜が自然に破れるのを待つのではなく、医療者が赤ちゃんを包んでいる膜を破ること)
- ・ 陣痛促進
- ・ 分娩所要時間
- ・ 麻酔薬の使用
- ・ 帝王切開
- ・ 縫合を必要とする会陰裂傷
- ・ 会陰無傷
- ・ 分娩後の出血
- ・ 産後の入院期間
- ・ 低出生体重児
- ・ 早産
- ・ アプガールスコア5分後(赤ちゃんの元気度の得点)
- ・ 新生児のNICUへの入院
- ・ 新生児の痙攣
- ・ 産後うつ

